

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2096 号

Factors affecting persistent splenomegaly after adult-to-adult living donor liver transplantation using a left lobe

(左葉グラフトを用いた成人生体肝移植後の持続性脾腫に影響を及ぼす因子についての検討)

川野 文裕 (かわの ふみひろ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

これまでに他施設で移植後持続性脾腫や血小板減少症に対する原因に対して様々な報告があるものの、はっきりとした要因が解明されていない。

本論文は、術前後での脾容積を測定し、門脈圧、術中出血量、グラフト容積など様々な要因に関して検討を行い、術前脾容積が術後持続性脾腫の要因となることを示した臨床的に意義のある研究である。

また、術後 CT 上は脾腫を認める症例においても、血小板数は増加していることから、脾機能が改善し門脈圧の正常化を認めている可能性があることが示唆された。

他の研究において術後持続する脾腫が術後血小板減少症に起因しており、脾臓摘出を行うことを提唱している報告もあるが、本研究においては血小板値の改善を認めていることから、肉眼的な脾腫が残存していても必ずしも移植手術時に脾摘を行う必要はないことを示した。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。